



日本語としまむにの音の対応 たいおう

ポイント

1. 日本語の「オの段」は、しまむにの「ウの段」
2. 日本語の「エの段」は、しまむにの「イの段」
3. 日本語の「カの行」は、しまむにの「ハの行」

しまむには琉球の言葉りゅうきゅう（琉球諸語りゅうきゅうしょご）の仲間です。日本語と琉球諸語は、遠い昔に同じ祖先そせんから分かれた言葉なので、基本的な単語きほんてき たんごの60%～70%が、同じ語源ごげんを持っています。そして、同じ語源ごげんを持つ単語同士には、規則的な音の対応きそくてき たいおうがあります。この「音の対応たいおう」が分かると、日本語からしまむにの単語たんごを予想することができます。ここでは、日本語としまむにの「音の対応 3大ルール」を紹介します。

ルール1 < 日本語のオ (o) の段は、しまむにのウ (u) の段

日本語のオ (o) の段は、しまむにのウ (u) の段になります。例えば、体の「腿 (もも)」は、オの段をウの段に変えると「むむ」となるので、「しまむにでは『むむ』」と予想できます。

日本語	→	しまむに
腿 (もも : momo)	→	むむ (mumu)
戸 (と : to)	→	とー (tuu)
星 (ほし : hosi)	→	ふし (husi)

ルール2 < 日本語のエ (e) の段は、しまむにのイ (i) の段

日本語のエ (e) の段は、しまむにのイ (i) の段になります。例えば、「雨」は、エの段をイの段に変えると「あみ」となるので、「しまむにでは『あみ』」と予想できます。

日本語	→	しまむに
目 (め : me)	→	みー (mii)
根 (ね : ne)	→	にー (nii)
雨 (あめ : ame)	→	あみ (ami)

ルール3 < 日本語の力(k)の行は、しまむにのハ(h)の行

日本語の力(k)の行は、しまむにのハ(h)の行になります。例えば、「鏡(かがみ)」は、力の行をハの行に変えると「はがみ」となるので、「しまむにでは『はがみ』と予想できます。この力の行とハの行の対応は、琉球りゅうきゅうの言葉の中でも、沖永良部おきのえらぶ・与論よろん・沖縄北部おきなわの方言だけが持っている特徴です。

日本語		しまむに
木(き:ki)	→	ひー(hii)
肩(かた:kata)	→	はた(hata)
鏡(かがみ:kagami)	→	はがみ(hagami)

練習問題

色々な体の部分の名前を、自分の集落ではなんというか聞いてみましょう。
そして、日本語と音の対応がある単語を探してみましょう。

